

渥美国際交流財団 2020年度奨学生研究報告会

2021年3月6日

於：渥美財団ホール

2020年度渥美奨学生

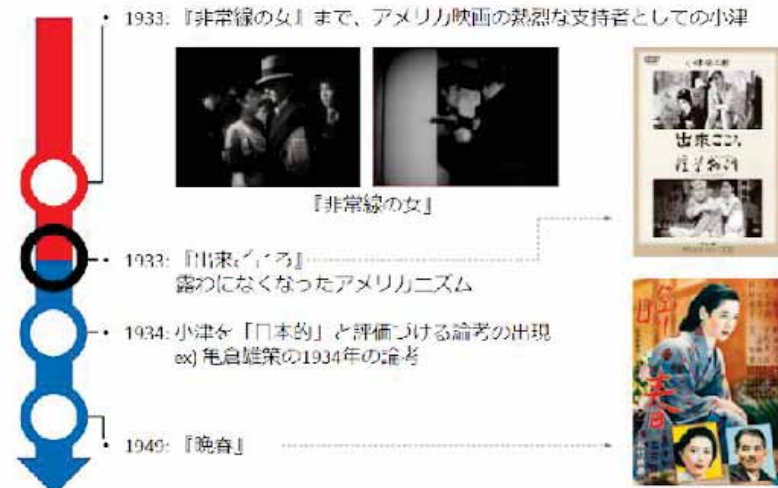


具慧原

「1930年代の批評言説からみる小津映画の「日本的なもの」」



2. 小津映画の「日本的なもの」への転向



于寧「ネーミングの政治学とクィア・ビデオ・アクティビズム： 中国における性的マイノリティによる「映像実践」から読み解く クィア運動の実態」



「クィア・ビデオ・アクティビズム」を促進する性的マイノリティNGO

映画製作	配給	作り手の育成

吳勤文「夏目漱石とイギリスロマン主義思潮」



浪漫

日本語における初用例：

漱石『野分』（1907.1）、
『文学論』（1907.5）

「文芸復興は人なる意味に於て父母の爲めに存在したる大時期である。十八世紀末の「シツク」復活も亦大なる意味に於て父母の爲めに存在したる小時期である。同時にスコット一派の浪漫派を生まんが爲めに存在した時期である。」

語源：
宋、蘇軾（與孟憲同遊常州僧舍）詩三首の一
「年來略覺此生浮，又作三吳浪漫遊。」
（「放肆、怠慢、不積極」）

→ 朝日新聞文芸欄、日本自然主義論争

『彼岸過迄』（『東京・大阪朝日新聞』（1912.1.2~4.29））
「浪漫趣味」：
1、國家主義と殖産興業を背景とし、南洋に向けるエオソチシズムの視線
2、「浪漫（ロマン）」

↓

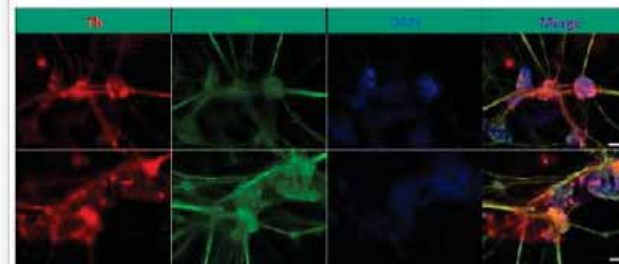
ドイツの中國主義への批判
社説「浪漫的行動を豫断すべからず」
（『大阪朝日新聞』、1914.10.8）

マリダン、ヌルマイマイティ

「光遺伝学を用いた iPS 細胞由来ドパミン神経細胞の α -シヌクレイン分泌調節」

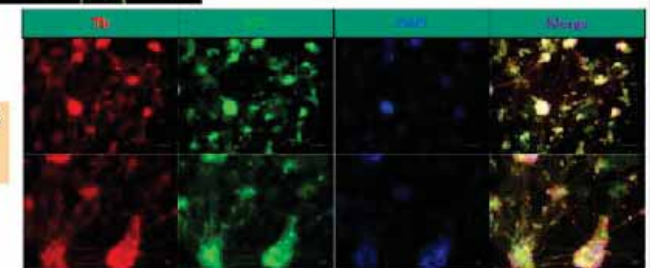


結果2 iPS細胞からドパミン神経細胞への分化



- TH: ドパミン神経細胞のマーカー
- β -tubulin: 神経細胞マーカー

SNCA変異由来iPS細胞から分化させた成熟ドパミン神経細胞においてもChR2-EYFPの発現が確認できた。



趙沼振「日大闘争の歴史性に関する試論—日大全共闘の記録づくりを中心に—」



「日大930の会」の記録活動

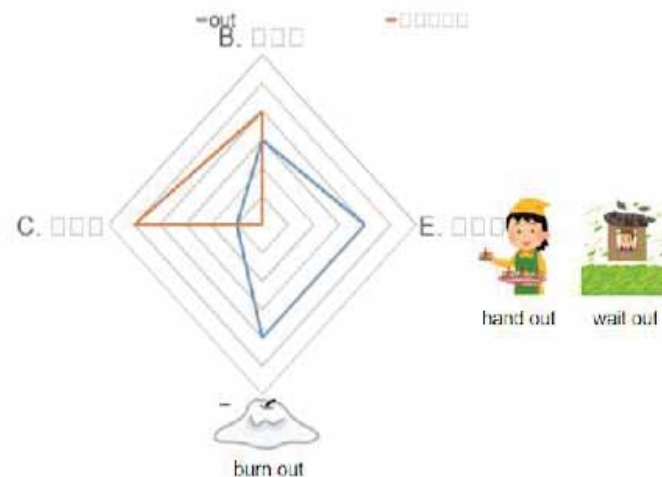
ただし、紙媒体の資料もさることながら、今を生きる全共闘の当事者による反省的な証言も重要である。日大闘争を経験した彼らが、「1968年」の記憶をふりかえって語ることはこれまでもしばしばあったのだが、日大闘争の記憶の聞き取りが本格的に行われるようになったのは最近のことである。「日大930の会」という集まりのなかの有志によって「日大闘争を記録する会」がつくられ、久崎薫副議長（1965年入学、法学部）を筆頭として、日大闘争の記録と日大全共闘についての理解をさらに深く追求する作業が進められてきた。同会が日大闘争に参加した全共闘メンバーらに呼びかけを行い、そこで共有された当事者らの記憶もふまえて、『日大闘争の記録—忘れざる日々』の刊行が2011年に開始されたのである。

ニューベリー ペイトン、クリスタファー ローレンス

「英語句動詞と日本語複合動詞の比較研究
—第二言語習得・言語教育の視点から—」



今回：いろいろなoutを1つの図にまとめちゃう



苗鳳科

「改革開放後の中国における近現代小説の受容研究
—80年代を中心に—」



改革開放後の中国における日本近現代小説
の受容研究
—80年代を中心に—



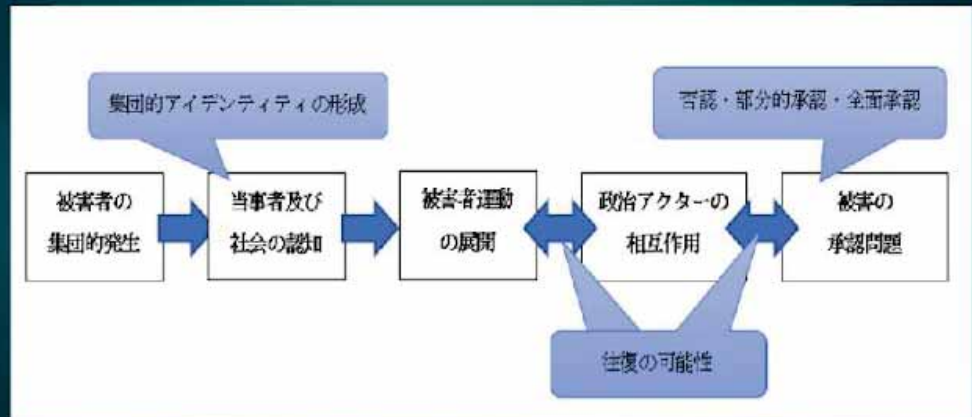
中央大学 苗鳳科

尹在彦「被害者の政治学」と政策的変容のメカニズム —国内政治の変化と「被害の承認」のダイナミズム—



被害の承認と5段階論

4



元笑予

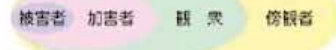
「いじめ傍観者の援助行動を促進する要因及び教師と生徒のいじめ介入要因 ―日本と中国の分析を通して―」

第2章 いじめ傍観者の援助行動

第1節 いじめ四層構造と傍観者の役割

2.1.1 いじめの四層構造

森田ら(1994)が示した「いじめの4層構造」

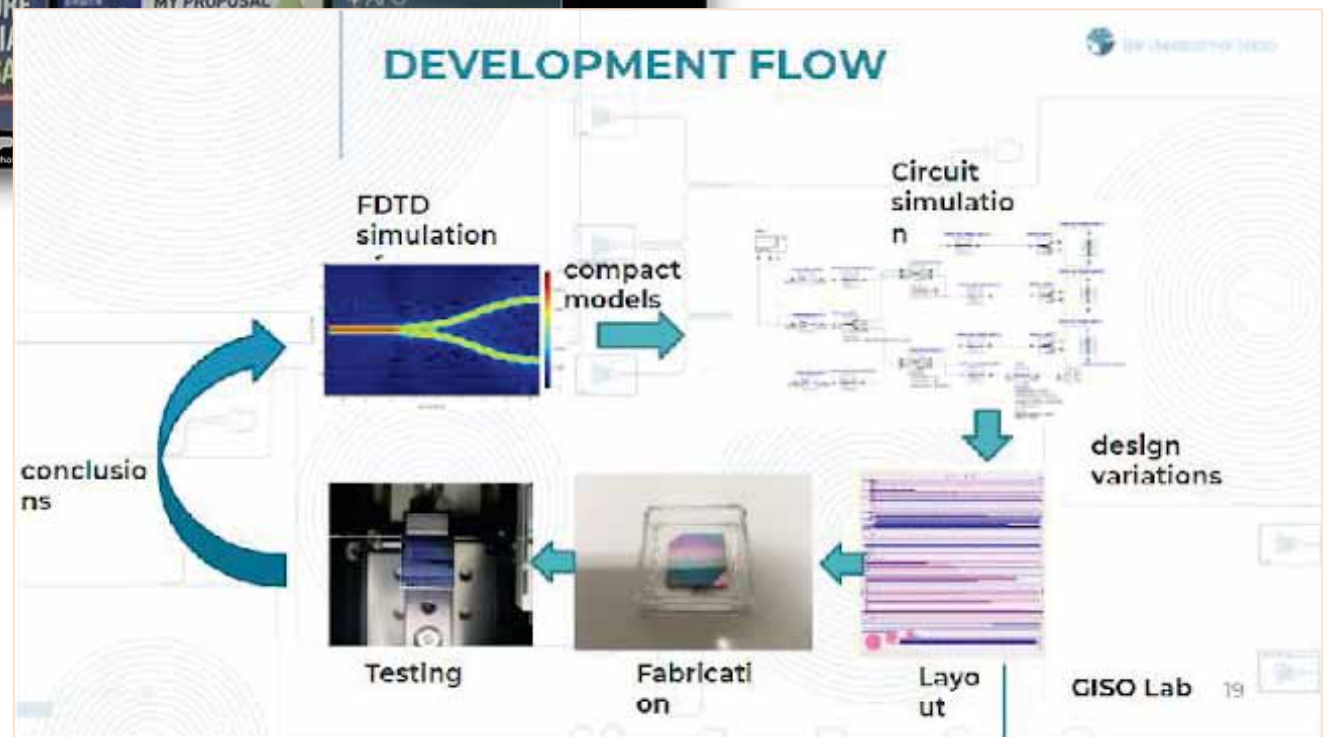


- *被害者... いじめられている子
- *加害者... いじめている子
- *観衆 ... いじめをはやし立て面白がっている子 (いじめを強化する存在)
- *傍観者... 見て見ぬふりをしている子 (いじめを支持する存在)

岡 いじめの四層構造 (森田・清永 (1994) より発表者作成)



シーシキン、ヴィクター 「OFDR方式分布型光ファイバセンサに用いる光集積回路干渉計の開発」



劉怡臻「植民地台湾における啄木文学の受容」



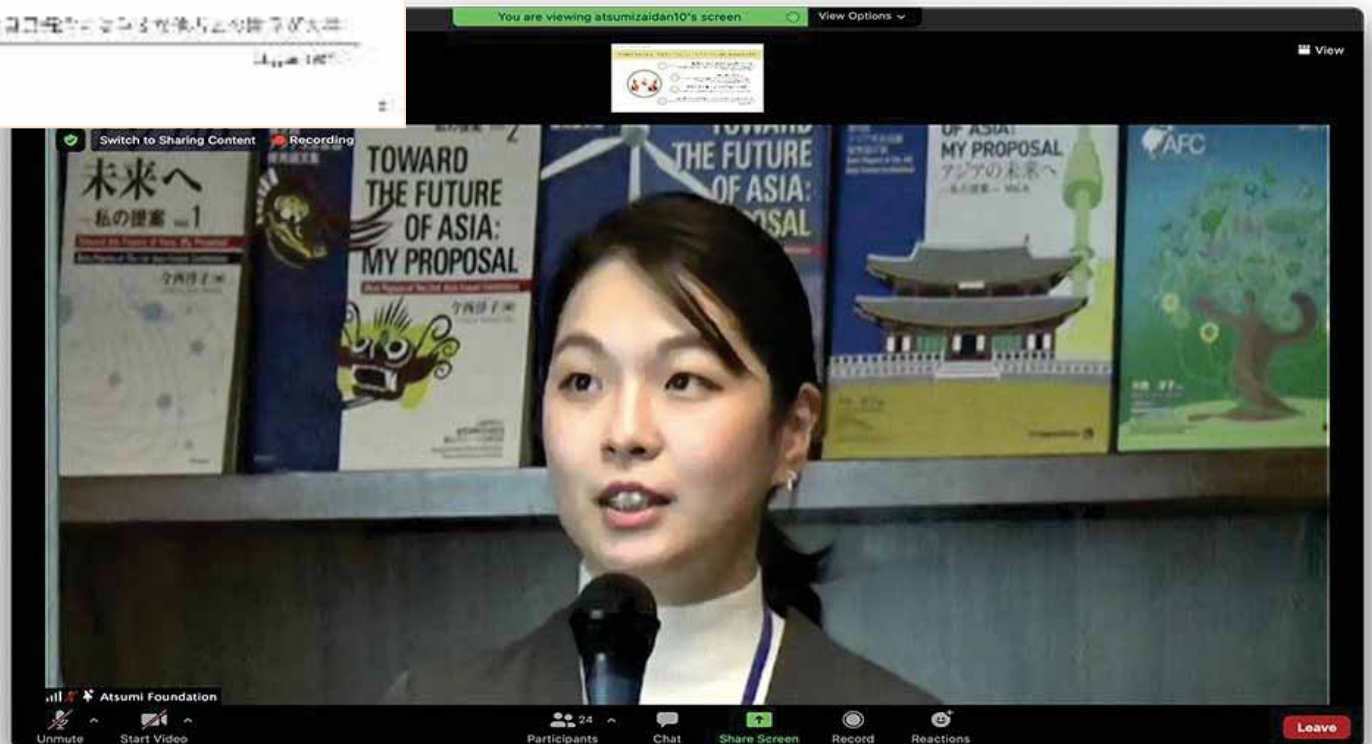
梁誠允「西鶴奇談研究」

好色一代男 (1682刊行)



李受眞

「知的障害者の自己理解と他者意識に関する臨床心理学的研究
—自尊感情に重点をおいたキャリアガイダンス・カウンセリングの開発—」



雍旭「手指の主要動作パターンを実現する軽量化筋電義手の開発」



UEC 電気通信大学

手指主要動作パターンを実現する軽量化筋電義手の開発

電気通信大学・情報理工学研究科
横井・姜・東郷研
雍旭

The image displays three rows of a prosthetic hand demonstrating different grasping patterns. The top row, labeled "Lateral & Hand Open", shows the hand in an open position and then grasping a pen. The middle row, labeled "Power Grasp", shows the hand grasping a yellow ball, a yellow pencil, and a yellow marker. The bottom row, labeled "Precision Grasp", shows the hand grasping a yellow ball, a yellow pencil, and a yellow marker. Each row is enclosed in a colored arrow-shaped frame pointing to the right.



明石康さま、苗さんの指導教授である宇佐美毅先生(中央大学)からお言葉をいただきました。





2020年度奨学生の予備選考を担当してくださいました平川先生、片岡先生よりお言葉をいただきました。





会場の様子
対面とZoomのハイブリットで
開催されました。

